南環状線に計画の道の駅

農家レストランや産直市

徳島市素案

徳島市は1日、国府町の徳島南環状線沿いに計画している道の駅の基本計画素案を市役所で開いた策定委員会で示した。農家レストランや地場産品の展示場などを設け、産業振興につなげるとしている。

素案によると、敷地面積1万平方㍍に床面積3300平方㍍の建物を建てる。建物内には、地元の農産物を使った農家料理を提供するレストランや産直市を設けるほか、新たな徳島ブランドとなる加工品を開発・製造する施設を整備し、6次産業化を推進する。

大工製品や阿波しじら織などの地場産業をPRする展示場、レンタサイクル、災害時の避難所などの機能も持たせる。駐車場は乗用車89台と大型車9台分で、電気自動車に対応した急速充電器を設置する。

場所は国府町延命で調整中。市は近く、素案を道路管理者の国に提出し、市と国による一体型整備を働き掛ける。完成は2019年度を目指している。（竹内仁志）

社会運動資料1万点

徳島市で　センター開所

開所式の後、センターを見学する関係者＝徳島市昭和町3のヒューマンわーくぴあ徳島

徳島県内で起きた労働や平和、人権など社会運動の資料を収集・公開する「とくしま社会運動資料センター」の開所式が1日、徳島市昭和町3のヒューマンわーくぴあ徳島で行われた。

センターは、同所2階の一室（40平方㍍）に設けられ、労働運動や平和活動の書籍、新聞、ビデオなど1万点以上を所蔵。資料目録はデータベース化され、センター内のパソコンで検索できる。開所時間は日、月曜と祝日、お盆、年末年始を除く午前10時～午後3時。

開所式には県や労働組合、平和団体などから約50人が出席。久積育郎センター長が「社会運動の記録を次の世代につないでいきたい」とあいさつし、テープカットをした。

この日は公開講座があり、鳴門市賀川豊彦記念館の田辺健二館長が講演。5階ホールでは、賀川豊彦の活動の足跡を紹介するパネル展が12日まで開かれている。（新居和人）

食料不足　調達に苦労

学徒動員で　軍需工場労働

近藤克

た近藤克弘さん（85）＝石井町浦庄＝は、学生が一堂に集められた講堂で、学長から「学徒動員の命令が出た」と告げられた。

「ペンを持つ手にハンマーを」。このスローガンを合言葉に、同級生ら約70人と向かった先は岐阜県神戸町の軍需工場。軍用機の部品作りを命じられ、旋盤工として車輪などを止めるねじの製造に携

られてくる設計図を基に、慣れない手つきで懸命に作業した。「夜勤では暗い電球の明かりしかなく、測定器の目盛りが十分に読めない。不良品を出さないよう必死だった」と振り返る。

育ち盛りの16歳にと

も次第に届かなくなった。空腹のあまり、休みの日に友人を誘い、近くの農家に食料の買い出しに行ったことがある。

当時、食料品は配給制で、お金があっても勝手に買うことはできない。農家は、国に作物を納めるよう強制されており、見つかれば逮捕される状況だった。必死で頼み込み、何とか地面に落ちた虫食いのナシを譲ってもらった。帰宅途中、警察官に呼び止められ、「道で拾った」とごまかした。

戦争末期の1945年7月ごろになると、毎晩のように空襲警報が鳴り響いた。工場はほとんど被害に遭わなかったが、完成した部品を工場から運び出す時にはたびたび、グラマン戦闘機による機銃掃射を受けた。

「家の屋根ぐらいの低空飛行で撃ってきて、しつこく何回も襲

戦時中の
ていた
浦庄の

後に亡くなった同級生も少なからずいた。

「戦争の記憶は心の痛み」と、戦後、つらい体験を語ることはほとんどなかった。それでも折に触れて、40年間の教員生活の中で教え子たちに平和の尊さを訴えてきた。「これからも自由と個性を尊重できる社会であってほしい」。穏やかな口調で願った。（笠井遵）

石川元議員　有罪確定へ

れからも自らの無実を

なく、現時点で法律上

浅山克己被告（48）＝名

た」と主張したが、八

小樽ミニ

地域貢

2014.10.02 徳島新聞